

二国間交流事業 共同研究報告書

令和4年4月12日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
神戸大学・経済経営研究所
[職・氏名]
教授・濱口伸明
[課題番号]
JPJSBP1 20190104

1. 事業名 相手国: ブラジル (振興会対応機関: CAPES) との共同研究

2. 研究課題名

(和文) 変革に向けた未来志向の日本ブラジル関係の構築に向けて

(英文) Partnership for a Change: Toward a Framework of Brazil-Japan Cooperation to Engage in Current and Future Issues

3. 共同研究全実施期間 2019年4月1日 ～2022年3月31日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国代表者(所属機関・職・氏名【全て英文】)

University of Brasilia・Associate Professor・Danielly Silva Ramos Becard

5. 委託費総額(返還額を除く)

本事業により執行した委託費総額		4,712,501 円
内訳	1年度目執行経費	2,337,501 円
	2年度目執行経費	2,375,000 円
	3年度目執行経費	0 円

6. 共同研究全実施期間を通じた参加者数(代表者を含む)

日本側参加者等	5 名
相手国側参加者等	9 名

* 参加者リスト(様式 B1(1))に表示される合計数を転記してください(途中で不参加となった方も含め、全ての期間で参加した通算の参加者数となります)。

7. 派遣・受入実績

	派遣		受入
	相手国	第三国	
1年度目	5	0	1(0)
2年度目	0	0	0(0)
3年度目	0	0	0(0)
4年度目	-	-	-()

* 派遣・受入実績(様式 B1(3))に表示される合計数を転記してください。

派遣: 本委託費を使用した日本側参加者等の相手国及び相手国以外への渡航実績(延べ人数)。

受入: 相手国側参加者等の来日実績(延べ人数)。カッコ内は本委託費で滞在費等を負担した内数。

8. 研究交流実績の概要・成果等

(1)研究交流実績概要(全期間を通じた研究交流の目的・研究交流計画の実施状況等)

過去の日本とブラジルの間の協力が両国の政治経済社会の転換期において強化された。この共同研究期間を通じた研究交流の学術的目的は、両国の現在の経済および国際関係の状況を鑑み、価値を共有した未来志向の二国間関係のありかたを両国の研究者が共同で探求することにある。また、共同研究は両国の研究者がイシューごとにペアを組んで実施して密接に知識交換を行うとともに、両国の若手研究者をメンバーに加えて研究実績のある研究者から知識を伝承し、二国間関係に関する次世代の研究交流を醸成することも目的とする。

2019 年8月から9月にかけて日本側参加者5名がブラジルを訪問し、研究者および政府実務者との意見交換、ODA により実施された事業の現地視察と関係者からの情報収集を行うとともに、ブラジリア大学国際関係学部において講演、学生指導を行った。

2020 年2月から4月の期間、代表者が所属する神戸大学経済経営研究所でブラジリア側メンバーであるブラジリア大学のポストドクレベルの研究者を1名受け入れ、研究者、国際協力実務者との情報交換を行う活動を支援した。

2020 年 9 月 1 日から 4 日の 4 日間、日本・ブラジル両国の参加者による第 1 回オンラインワークショップを開催した。本ワークショップは、本来ブラジリアで開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの開催となった。

2021 年 9 月 1 日から 3 日の 3 日間、日本・ブラジル両国の参加者による第 2 回オンラインワークショップを開催した。本ワークショップは、本来ブラジリアで開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの開催となった。

本研究交流事業において 6 篇 (Chapter 2～Chapter 7) の日本・ブラジル両国の研究者で執筆する国際共著論文と両国代表者が担当した Introduction および Conclusion を作成した。

Part I Brazil-Japan Cooperation from General Perspectives

Chapter 1 Introduction/Nobuaki Hamaguchi & Danielly Ramos

Chapter 2 Brazil - Japan Relationship: A Partnership? / Henrique Altemani de Oliveira & Antonio Carlos Lessa

Chapter 3 Japan's ODA to Developing Countries in the Health Sectors: Overall Trend and Future Prospects/ Rodrigo Pires de Campos & Saori Kawai

Part II: Brazil-Japan Cooperation from Global Perspective

Chapter 4 Global Environmental Governance and ODA from Japan to Brazil/ Shuichiro Masukata, Cristina Y. A. Inoue & Nanahira de Rabelo e Sant'Anna

Chapter 5 Trilateral Cooperation for Infrastructure/ Danielly Ramos & Akiko Koyasu

Part III: Brazil-Japan Cooperation from Bilateral Perspective

Chapter 6 Brazilian Workers in Japan and Public Policies for Promoting their Social Integration with a Focus on Basic Education to for Children/ Mauricio Bugarin & Keiichi Yamazaki

Chapter 7 Dissemination of Japanese Quality Control in Brazil/ Nobuaki Hamaguchi & Silvio Y.M. Miyazaki

Chapter 8 Conclusion – Structuring Brazil-Japan Cooperation from Complementarity to Shared Value/Nobuaki Hamaguchi & Danielly Ramos

前記の研究成果は Springer から共編著として出版する契約が成立している。出版準備のため原稿の校正等の編集作業を行った。この書籍はオンライン版と印刷体の両方で出版され、オンライン版についてはオープンアクセス契約を結んで積極的に成果普及を行うこととした。

(2)学術的価値(本研究交流により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

- ①日本とブラジルの二国関係は日本の対ラテンアメリカ関係およびブラジルの対アジア関係にとってそれぞれ基軸として重要であった。しかし、今日では中国とブラジルとの関係との比較で相対的に重要性が低下しているとみられている。本研究を通じて、中国の対ラテンアメリカ進出は経済的補完性、両国の対米従属を減じるためのカウンターウェイトという2つの構築要因を縮小させる影響を持ったことが明らかになった。
- ②両国が直面するグローバルな課題への対応に関しては、日本とブラジルの間で協力を拡大することによって、両国の国際的なプレゼンスを高めることができる領域があることが明らかになった。その領域とは、(1)国連安保理事会改革による世界平和構築への貢献。(2)両国ともに 2050 年までのカーボンニュートラル達成を唱える地球温暖化問題についての枠組み形成と技術革新への貢献。(3)ポスト・パンデミック国際社会におけるグローバルヘルス推進に関する枠組み形成と技術革新への貢献。(4)サブサハラアフリカ等における輸送・通信インフラ構築および食糧増産に貢献する第 3 国協力の推進。(5)デジタルテレビ放送技術における両国の技術協力が発展途上国における同技術の普及に貢献したことを踏まえて、発展途上国を対象にした第 5 世代以降の安全で高速な通信を基盤とするデジタル化社会の実現に向けた協力、であることが明らかになった。
- ③両国がそれぞれ直面する社会課題の解決に向けて協力が有効な分野があることが明らかになった。その領域とは(1)ブラジルにおける格差社会の是正に資する、質の高い労働を実現する日本的品質管理の導入・普及、(2)人口減少・高齢化に直面した日本における、外国人移住者を包摂した多文化共生社会実現に向けて、すでに日本に在住する日系人コミュニティの社会統合の課題解決。特に子供の教育の質・量の向上、などであることが明らかになった。

(3)相手国との交流(両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果)

上で報告した学術的知見は両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果である。またこれらの知見を国際共著論文にまとめることができ、学術書として英語で刊行することは、具体的な成果として結実したことを示している。

(4)社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本事業の研究活動期間中、在ブラジル日本国大使館と連携して研究を実施した。この連携を通じて研究成果の知見を提供することができた。また日本側参加者のブラジル出張および2度開催したオンラインワークショップでは在ブラジル日本国大使に講演をしていただく機会を設けた。この機会を通じてブラジリア大学の学生及び教員に日本の外交政策について情報を提供し理解を広めることができた。

(5)若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

本事業では日本とブラジルの両方で若手研究者が参加し、両国の若手研究者どうし、および両国の若手研究者と相手国のシニア研究者との間で研究交流を行うことができた。日本側若手研究者は、本事業の成果に基づいて米国ラテンアメリカ学会等が主催した LASA/Asia 2022(2022 年 2 月 15 日から 19 日までオンライン開催)で報告を行い、国際学会での報告実績を上げることができた。

(6)将来発展可能性(本研究交流事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本研究交流事業で開拓された二国間関係に関する様々な知見は、日本とブラジルの関係が二国間の経済的特性の差異に基づく補完性と対米関係を基軸とした関係から、グローバルな課題と両国固有の社会課題という2つの領域において新たな構築する方向に向かうことが両国に共通の価値を与える潜在的可能性があることを示している。このような便益を実現するためには戦略的パートナーシップが必要であることから、両国の戦略的

外交の在り方に関する研究という先端的な研究領域の中に、本研究交流事業が取り扱った二国間関係を位置づけることを示唆している。このことから、単に二国間関係だけを観察していたこれまでの日本ブラジル関係の研究蓄積に対して、本研究で取り上げたそれぞれのテーマについてより大きな枠組みの中に位置づけて研究を発展させる可能性を明らかにしたといえることができる。

(7)その他(上記(2)～(6)以外に得られた成果があれば記述してください)

例:大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得など

特記事項なし